



歌・演芸に楽しい一日

「生活に創造性を求め、地域に豊かさをもたらそう」をテーマにした第二回公民館まつり芸能発表会は、十一月十四日十三小学校で開かれました。

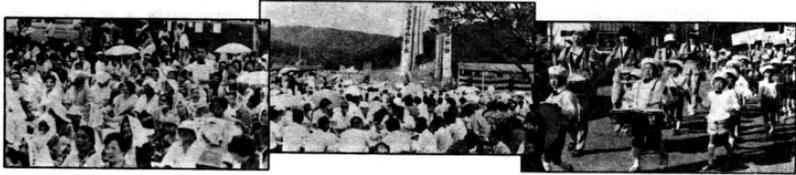
第二回目を迎えた芸能発表会には、村内各地域で活動が続いている青年、婦人やお年寄りが一堂に会し、得意のノドや演芸を披露。村内外からかけた観衆

で埋めつくされた会場からは、手拍子や声援が飛び交い、なごやかなふんいきに包まれていました。
主催した教育委員会では、これを契機に各地区公民館活動の向上と、地区公民館まつりの開催を呼びかけています。

多彩なプログラムですすめられた芸能発表会は、客席からやんやのかつさいを浴びていました。

昭和56年

10・11月号



国 県に陳情してきたところであり、誘致実現のため、私が議会でも誘致促進の決議を全員満場一致の議決をしている。

この議会の意思等を尊重し、決議を背景に執行機関の長として村長が、国、県に働きかけの如何が悲願達成のカギとなっている。

村の開発については、議会ととも重大な関心を持っており、今後も村民の幸せを求めて、一生けんめい努力する覚悟である。

市浦の議会は、村長とタイアップしてはいないではないか、タイアップしようとしていないのではないかとというような批判の声もあるが、決して騒いでいるだけのものではなく、村の将来に向けて一生けんめい取り組んでいる。今後、村でやらなければならない事は、満場一致で議決もしているのだから、今後とも村民の協力を願っている。

また、県で計画している避難港の立地条件としては、いろいろの調査で最適地であるといわれているだけに、何となく誘致したいと考えているので、村発展のために村民一人一人の力を結集させたい。

司会者
小倉議長からは、出かきぎをしなくとも住めるような開発構想と、議会としても発展のため努力しているのだから、議員の立場も理解しては

生涯教育を充実させ

人間形成に役立つ教育を



俣谷教育長

教育というと、学校教育だけを考えがらだが、大きく分けて、家庭教育、学校教育、社会教育に分けられる。更に広い意味の分け方としては、お母さんのお腹の中にあるうちから教育がはじまっているとも言われている。

家庭における幼児教育、幼稚園、小学校、中学校、高校、大学と更に社会人になってからの教育、これがまた大事な教育であって、老人教育、つまり、お股の中から墓場に入るまでが教育、それを生涯教育と言っているのだと思

しい。また、議員十六人のリーダーとして、村長とタイアップしから村発展のために努力していきたいという、やる気十分の発言がありました。

う。

したがって、教育によって立派な人づくりと、社会が成長するのであって、その土台となるのが教育なのである。その中で、特に取りあげられているのが家庭教育でもある。

市浦の教育は、将来にわたって、市浦の発展に資するような自立派な村民を育てる。力のあるものは、他にだて行つて、県外はもと、広く海外にまで出て進出するような人間を育てるために行っている。

義務教育 現在四小学校と一中学校があり、それぞれ地域の特性を生かした教育目標を設定しており、郡内でも市浦の教育は優秀であるという評価を得ている。

厳しい財政状況の中では、施設整備も満足できるもので

はないが、他町村に比べると良い方だと思われる。

特中学校は、村の苦しい財政の中で寄宿舎を配当運営してきたことは、いかに教育を大事に考えているかの表われであると思う。

寄宿舎の生活は、子供たちにとって、友情を深めて団結力を育てる。家庭の甘えから脱却するためがあるが、反面、おが家の親としての自覚がなくなる。親もまた、寄宿舎にあずけておけば手がからないうような考え方があつた。ここに問題があるのです。村内の道路整備もなされ、最近、寄宿舎の不用論も出ているようにだし、寄宿舎そのものも老朽化している。

寄宿舎については、今後、慎重に検討していきたくて考えている。世間調査、実態調査等をして、世論に対処していきたくて考えている。

現在の教育施策については、中学校のプール建設などを考えているが、相内小学校の危険度についても調査しているが、ここ四五年のうちに新校舎建設も予想されることから、太田小学校との統合も含めて検討したいと考えている。金米高校相内分校については、開校以来立派な人を送り出して、開校が、年々生徒数が

少なくなり、現在十八名である。

この点についても、関係者、村民を話しあう必要はさせられてきたことは、いかに教育を大事に考えているかの表われであると思う。

社会教育については、西北管内でも注目される位の活動をしている。家庭教育学級、子供会、PTA、公民館活動等広い学習の場を設定しているが、学習する顔ぶれも多くなつてきているので、村民一人一人が、それぞれの立場で学習してほしいと思う。

海軍センターについては、村民の協力で建設され、今年九月から利用運営しているが、各団体、村民みんなが参加利用もしていただき、又ポイントも通つても、明るい村づくりを努めてほしい。

教育の発展は、全村民の教育に対する理解と協力によって達成されるから、両層のご指導をお願いする。

司会者
俣谷教育長からは、人間はお腹の中に入っている赤ちゃんと墓場に入る寸前まで教育は必要なのだということから、人間づくりに土台となる教育を全村民の協力で行くべきだ、ということが強調されました。

創意を生かし

健全財政を保つ



三上総経理長

四億ぐらいになっているが、五十六年度当初予算では約十三億である。

合併した昭和三十年の頃は、約千万円程度であるから二十数年間の我が村の財政は、六十倍から七十倍ぐらいにふくらんできている。

予算規模の増大に伴って仕事の内容も随分と増えているのが実態のようです。そこで十三億の中で、村民がどれだけの税金を負担しているかと

言えば、八千九百万円であり、予算全体の六割、七割である。その残りの分は、国や県等の補助金にたよったり、起債(借金)でまかなっている。

ちなみに、税金以外の依存財源は八六%にもなっている。他に依存して市浦の財政がなりたっており、この返に市浦村の貧しさというか、悲しさといふものがあるわけです。

一番依存度の大きいのが起債(借金)であり、この借金は、昭和十五年度末で九億四千

万円です。このほか、市浦診療所の累積赤字が一億五千万円ほどあります。合わせると約十一

億の借金をかかっていることになる。

この借金(赤字)を村民一人一人に割ってみると二十六万六千円、一世帯当りでは九十九万円となる。

村では、村民がらいたいた税金や起債などを合わせて十三億とか十四億の予算規模にして、道路、建物、老人医療、福祉、学校教育などに

使っている。だから、ありまなく事業をしながら事業を進めているんだ。という事を認識していただきたい。

当村の財政は健全なのか。たとえば、十四億の予算の中で、建設的投資にかけられる金額が大きければ大きい程、財政の運営が上手だということになるのだが、ちなみに、昭和五十六年度では、ふんばつして、約五億の建設投資をして

いる。これは、昨年の約二倍に当たる金額であり、このペースを来年度以降も継続していきたいというのが我々の念願である。

しかし、年々借金も増えるし、借金も考えものだが、借金しないし事業はやれない。事業を多くやるためには借金をしなければならぬ。とい

うジレンマがあるわけです。村の財政が健全か不健全かを測定する尺度の一つに、經常収支比率というのがあるが、これは、七〇を超える危険信号、八〇を超えると硬直化現象百になるとのバツク状態といわれているわけです。

我が村は、県内で悪い方から七番目以内で、その率は八十八・八十九となっており、人間にたとえれば高血圧の症状でかなり状態が悪い。これを見てても当村の財政は大変な状態であることを認識してほしい。

自主財源がきわめて少なく、借金しないとうりすることもある。出来ないうちで、将来的に健全財政を保つためには、経常的な経費を出るだけ切つめて行かないと、市浦の財政は破たんして行くことになる。

このことは、当村だけでは、竹谷企画室長、企画室、村長の政策的な部門も担当しているところである。

急激な経済成長は、私たち

なく、国も膨大な借金をかかえておることから行政改革というものに取りかんでいる。

今後は、県も我が村も身近かな問題としてとらえて、お互いがまんまあい、みんな協力しあつて行くことが大事だと思つて行きます。

こういう厳しい財政状況の中でこそ、創意を生かしてもつて行くことが、我々に与えられた任務だと思つて行

う。自主財源が以外に少ないという事に気がついたことと思う。一世帯当り九十九万円、村民一人当りで二十六万六千円の借金があとということだが、少ない自主財源をいかに効果的に利用することが、今後大きな課題になるかと思ひます。

司会者 自主財源が以外に少ないという事に気がついたことと思う。一世帯当り九十九万円、村民一人当りで二十六万六千円の借金があとということだが、少ない自主財源をいかに効果的に利用することが、今後大きな課題になるかと思ひます。

人口の定住を図り 活力のある村づくりを

竹谷企画室長、企画室、村長の政策的な部門も担当しているところである。急激な経済成長は、私たち





高度成長は、地域格差のひずみを生み、村の基幹産業である農林漁業が年々衰退し、これと並行して、人口も減少の一途をたどり、過疎化の現象を示している。

人口減少の主な原因としては、農林漁業の弱体、細細化による若年労働力の流出、出かせぎの通年化も大きな拍車をかけている。

十四歳から二十九歳の若年層が一番減少し、反面六十歳以上

上の人口が大幅に増加して、高齢化社会に移行している。都市においては、人口、あるいは都市機能の急激な集中、地価の高騰、土地利用の困難、都市施設の立ちおくれなど特に大都市圏を中心に過密問題が生じている。

このような都市化の波は、都市に限らず、町村においても生活環境の悪化をもたらし、私たちの生活様式の多様化、生活意識の都市化の移行により住民の行政に対する要望も

サービスの高度化が望まれている。

① 豊かな村づくりを促すためには、身近かな生活環境等の問題を出し、行政に反映させた諸施策が必要となってきている。

② 国、県の厳しい財政状況の中で、行政改革に取り組みしている現在、多種多様な要望を全て解決するとは、専門的行政サービスが必要であり、町村としても、こうした総合的な見直しをする必要にせまられている。

新しい村づくりをするための条件づくり、環境づくりこそが行政の役割であり、みなさん重要意見をすいあげることが我々の仕事と認識している。

また、B&G財団市浦海洋センターについては、みなさんのご理解とご協力により建設され、隣接してコミュニティセンターも建設中であるが、これらの施設を有効活用して、真のスポーツ精神を養い、村づくりの拠点となるようなコミュニティ形成を図ってゆかなくてはならない。

村づくりの基本的な考え方としては、自然資源を有効に利用して、農林漁業の振興、企業誘致、観光開発等を計画

的に進めて、住民定着の村づくりを推進する。

① 人間性豊かなまじりのある村。

② 健康で、安心して生活できる明るく美しい村。

③ 生産性の高い活力のある村を考えている。

また、長期的な構想として、河口都市建設をかねており、十二湖の環境保全と漁業資源の確保、さらには工業港を兼ね備えた一大港湾の建設を期待している。

具体的施策としては、経済的豊かさの面で低位にあることから地域住民の所得の向上と雇用の場を確保するに積至る冷地という厳しい自然条件と、社会資本の整備が立ちおくれていることから自然条件を克服し、快適な生活環境を整備充実を図る。

若年層の流出と人口の高齢化が進行していることから、地域連帯意識の高揚、文化的生活の確保、教育水準の向上に努める。

以上の課題を解決するためには、長期的展望に立って、地域の特性をみきわめながら、地域住民の創意と活力を結集し、次を担う若い世代が希望に満ちあふれた生産性豊かな活力のある村づくりをしようとしている。

うとしていく。

津軽総合開発とのかかわり

津軽総合開発計画の中から市浦にかかわる主な事業をあげると、津軽新港総合開発事業がある。

この計画では、避難港を出発点とした港づくりで企業の誘致や産業基盤の整備を考えている。将来的には、外国と貿易のできる商業港、更にはエネルギー港にしたいとしている。

国の財政状況からして、一挙に商業港、工業港としての建設は困難だと思いが、町村としては、早くから誘致するために、北郡町村会、同議長会、国、県の機関に陳情、要望してきたところである。

県でも現在、津軽地域のどここの場所に建設すれば、津軽地域の総合的な振興に結びつか、各専門家による委員会を組織し検討中ですが、なんともし、誘致したいと考えている。

火力発電の誘致

国策であるエネルギー問題では、資源総合開発事業がある。これは、津軽地域の産業活動及び住民生活の維持向上、石油代替エネルギーを考えた事業であり、町村では、さっそく隣接町村の同意を得ながら、石炭火力発電所の誘致運動をすすめているところである。

火力発電所は、建設コストが高いことから、国、電力会社では将来のエネルギーは原発であろう。という考え方を示しており、通産省も五十一年度から電力供給の安定を図るために、原発設置場所を選定している。

原発を設置する地域には積極的企業を配置し、新しいむらづくりをしようという構想です。

火力発電から原発へと状況が変わってきている中で、公益的で、大型のプロジエクトを誘致するとなれば、国策にそってものでなければいけないと思う。

原動力については、まだまだ不勉強で、無知であるが、火力発電所も合わせ、住民と一緒に勉強し、考えて行かなければならぬ。財務づから担う子供たちのためにも、これら諸問題に真剣に取り組み時ではないでしょう。

司会者

現状では、産業基盤の面で非常に厳しいものがある。人口が減少して、特に若い層の流出で高齢化社会に移行して

おり、活力も低下している。したがって、長期的な展望に立つて地域の特性にあった生産者の高い活力のある村にして行きたい。ということがのべられたようです。



賀間 三和秀次さん

一、市浦牛が定期的に出荷出来る見通し。荷して、販売される見通し。

二、冷害にみまわれた農家対策と商工業者対策。

三、観光開発の現状と将来的な展望。

答弁(村長)

一、肉牛の定期出荷は、現在、大阪市場だけである。また、県経済連の出荷計画にもとづいているが、定期出荷となれば、多頭飼育がなされるには話にならない。

市浦牛の銘柄をとっているから、今後は、観光と畜産を合わせた形で、住民又は観光客に供給する方

法もある。そのためには、地元で組合組織も検討する必要がある。

二、農家の冷害による収入減で、商工業にも大きな影響を与えていると思う。二年続きの冷害であるため、保障協会等をお願いして融資等の面で検討したい。

三、観光資源に恵まれているにもかかわらず、開発が進まないのは、国、県の補助金を過大にみこんだりしていたため、来年度以降は、村独自でも投資して観光開発を進めたいと考えている。

特に市浦の観光は、十三湖中島の開発を主玉にして

観光開発については、津軽総合開発の中でも大規模であり、村単独の事業主体で進められている。将来的な観光開発、津軽一帯の観光を目指すためにコンサルタントに依頼している。

質問(竹谷豊)

一、肉牛の銘柄をとっているから、今後は、観光と畜産を合わせた形で、住民又は観光客に供給する方

二、農家の冷害による収入減で、商工業にも大きな影響を与えていると思う。二年続きの冷害であるため、保障協会等をお願いして融資等の面で検討したい。

三、観光資源に恵まれているにもかかわらず、開発が進まないのは、国、県の補助金を過大にみこんだりしていたため、来年度以降は、村独自でも投資して観光開発を進めたいと考えている。

特に市浦の観光は、十三湖中島の開発を主玉にして

観光開発については、津軽総合開発の中でも大規模であり、村単独の事業主体で進められている。将来的な観光開発、津軽一帯の観光を目指すためにコンサルタントに依頼している。

観光開発については、津軽総合開発の中でも大規模であり、村単独の事業主体で進められている。将来的な観光開発、津軽一帯の観光を目指すためにコンサルタントに依頼している。

観光開発については、津軽総合開発の中でも大規模であり、村単独の事業主体で進められている。将来的な観光開発、津軽一帯の観光を目指すためにコンサルタントに依頼している。



司会者

収入を決めていただき、村長ができるだけ在村して、村民との対話をしたい。

二、市浦宮林署の統合の話もあるが、当村にとって、宮林署がなくならないこと事態ダメージが大きいと思

赤字をかかえての国有林だが、宮林署の一員、村民の一人として地元の役に立ちたいと思う。



要意見として処理したい

と思いますのでよろしくお願

時間関係上、質問を打ち

切ります。

健康で明るく、快適な村づく

り(健康をよ)をテーマに話

しあっていたかもしれませんが、必ずしも快適ではないようです。それぞれの担当からその問題点も出されたが、村民一人一人が、胸に植えて、みなさんのナマの声を行政に反映させてほしいと思います。

百万円、出かせき取入は、六

漁業生産は、十三漁協でも一

ひびくするものと思

こういう中であって、合併

以来、二十六年間、四千二百五

十七名の住民と一千百九世帯

割合は四四％に達している

市浦が、こういう苦しい現

況にあることが、はっきり出

ているものと思

こういう時にあたって、み

んなで健康で明るく快適な村

づくりをすすめて行くために

は、どのようにしたらよいか

これは、村民との対話、行

政との対話と協力がなくして

出来ないと

五人の講師によつてシンポジウムを開いたが、村長からは、村づくりのビジョン、議長からは、出かせきをなくし、住みよ村づくりをすすめるための企業誘致を議会としても全力を傾注したい。教育長からは、社会教育等を充実し、生涯教育に努めたい。総務課長からは、財政における苦しい実情が話されました。

企画室長からは、村長の政策的な仕事を実施するんだというところが話されたわけです。市浦の現状からいって、農業生産は、平年の場合八億七千万円、うち米が六億八千九

その基本全数からしても、社会福祉となるのは、社会教育であります。そういう観点に立つて、身体障害者、老人福祉、母子、あらゆる面に对して、みなさんの手で、私たちの手で、くいのない市浦村の一ページを作りあげて行くようではありませんか。



講師 本庄珍雄

